

平成 4 年	植防情報	発表	栃木県病害虫防除所
3 月 1 2 日		発行	栃木県植物防疫協会

病害虫発生予察特殊報第 2 号

病害虫名 マメハモグリバエ

1. 発生確認までの経過

平成 4 年 2 月、栃木県真岡市のキクにハモグリバエの一種が発生した。

この虫を元京都府立大学教授笹川満廣氏に同定を依頼した結果、マメハモグリバエ（学名：*Liriomyza trifolii* BURGESS）であることが明らかになった。

本種は我国では既知種であるが、マメ科以外の植物から採集されたり、他の作物で大発生したことはなかった。しかし、欧米では薬剤抵抗性出現のため重要害虫となっている。

現在までのところ静岡県、愛知県、千葉県、東京都（大島）、三重県で発生が見られ問題となっている。

2. 発生状況

2 月 2 4 日、現地調査を行ったところ、平成 3 年 7 月に県外から導入した苗の一部で発生が確認された。しかし、その他周辺地域での発生は現在のところ認められていない。

今後も継続調査を実施する予定である。

3. マメハモグリバエの形態及び発生生態

(1) 形態

- 1) 成虫は体長約2mm、頭部及び胸部と腹部の側面は黄色、その他は黒く光沢がある。雌にはよく発達した産卵管がある。近縁種のナスハモグリバエ、ネギハモグリバエ等の形態とよく似ており、肉眼では区別しにくい。
- 2) 卵は円筒形、半透明、ゼリー状で長さは約0.2mmである。
- 3) 幼虫は黄褐色のウジで、成長すると約2.5mmになる。
- 4) 蛹は褐色で、長さ約2mmである。

(2) 生態

- 1) 成虫は産卵管で葉面に小さな穴を開け、にじみ出る汁液を摂取する。
- 2) 卵は葉の内側に産みつけられ、1雌当たりの産卵数はキクやセルリーで300~400個、トマトでは約50個である。幼虫は葉に潜ったまま葉肉を食害する。老熟幼虫は葉の外に出て落下し、地表面や地中の浅いところで蛹になる。
- 3) 露地では蛹で越冬すると考えられており、冬期は発生が見られないが、施設内では年間を通して発生する。
- 4) 卵から羽化までの期間は、15℃で約64日、20℃で約30日、25℃で約19日、30℃で約16日である。35℃では約14日であるが、生存率は極めて低くなる。なお、10℃以下ではほとんど成長できない。

(3) 寄主植物

寄主範囲は極めて広く、キク、ガーベラ、サイネリア、マリーゴールド、セルリー、トマト、宿根カスミソウ、ハクサイ、ダイコン、チンゲンサイ、レタス、メロン、キュウリ、ダイズ、エンドウ、タマネギ、ナス、ジャガイモ、ニンジンその他、キク科の雑草などにも寄生する。特にキク科、セリ科、マメ科の植物を好む。外国では21科120種の植物に寄生することが知られている。

(4) 被害

幼虫による葉の食害痕が白い線状となって残るうえに、成虫の食痕や産卵痕も白い斑点となるため、花き類では著しく商品価値が低下する。

また、幼虫の食害により、光合成が阻害されて生育不良となる。特に、稚苗期に発生した場合、影響は大きい。果菜類では多発すると下葉から枯れ上がり減収する。

4 . 防除対策

本種は各薬剤に対し感受性が低下しているので、薬剤防除に加え、物理的、耕種的防除法を組み合わせる必要がある。

- (1) 現在のところ、本種は苗など植物体の人為的な移動により発生が見られていることから、発生ほ場からの持ち込みを極力避ける。
- (2) 本種の蛹は地表面などに多いため、発生ほ場では栽培終了後に土壤消毒を行い蛹を死滅させる。
- (3) 本種は明るいところを好むので、特に南に面した箇所や通路側での発生に注意する。
- (4) 発生を確認したらできるだけ早期に防除を行う。成虫は黄色に強く誘引される性質があるので粘着剤を塗った黄色リボンを吊るしておくことで発生を知ることができる。
- (5) 成虫の侵入を防止するため、施設開口部には寒冷紗などを設置する。
- (6) ほ場周辺部の雑草にも寄生するので特にキク科雑草を除去するなど、ほ場衛生に努める。
- (7) 収穫後の被害残さは発生源となるので、焼却などの処分を適切に行い、施設周辺に放置しない。
- (8) 多発してからの薬剤散布では防除効果が劣るので、発生を確認したら直ちに防除を行なう。なお、本種に対する薬剤登録はないため、下表にあげた薬剤を参考に安全使用基準に基づき他害虫との同時防除を行う。

防除薬剤と安全使用基準

薬剤名・剤型	安全使用基準（収穫前日数 / 使用回数、使用量）			
	トマト	ナス	キュウリ	キク
オルトラン粒剤	7/3 3～6Kg/10a	前/3 3～6Kg/10a	前/3 3～6Kg/10a	-/- 1～2g/株
オルトラン水和剤	7/3 1000～2000 倍	7/3 1000倍		-/- 1000倍
カルホス乳剤				-/- 1000倍
トクチオン乳剤				-/- 1000倍
ミクロデナポン水和剤	7/3 800～1000 倍	3/- 800～1000 倍	3/- 800～1000 倍	
マブリック水和剤	前/2 4000倍	前/2 4000倍	前/2 4000倍	-/- 2000倍